※令和４年度以降入学生用

学校番号	216

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｂ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「高等学校　数学Ｂ」（数研出版）						
副教材等	新課程　教科書傍用　3TRIAL　数学 II+B〔数列，統計的な推測〕（数研出版） 新課程　リンク数学演習Ⅰ・A＋II・B・C〔ベクトル〕　受験編　a＋b（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

- 授業をしっかり聞きましょう。授業の説明を聞いた後，自分で問題を解決して，正しい解答と照合して，さらに理解を深めるという方法で授業を進めていきます。
- 授業で出される宿題や問題集の問題は，まず必ず自分で解きましょう。数学の勉強では，答えを眺めてわかったつもりになっていても，実際に問題を解くと解けないことがよくあります。数学の勉強をするときには，必ずノートにきちんと計算したり図を描いたりしながら解いていくようにしてください。そうすることで，自分自身が本当に理解できているかどうかを確認することができ，自分の力を伸ばしていくことにつながっていきます。その際，わからない問題でもあきらめない事が大切です。絶対に簡単にあきらめてはいけません。解けない問題を解こうとする過程が大切であり，解けなかったとしても，考える過程は決して無駄にはなりません。それが本当の勉強であり力を伸ばす源となります。
  授業で理解できなかったところを友人にきいたり先生に質問して理解するようにしたり，もう一度自分で考えてみて理解しているかどうかを確認しましょう。何度でもきちんと復習することが理解へとつながっていきます。

2　学習の到達目標

(1)　数列または確率分布と統計的な推測について，知識や技能を身につけるようにする。
(2)　事象を数学的に考察し，進んで表現することによって，数学を活用する態度を育てる。
(3)　主体的，対話的で深い学びを通して，実社会に必要な数学の知識や技能を身につけ，論理的に考える力を身につけることができる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

※令和４年度以降入学生用

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
１学期	第１節等差数列と等比数列	１．数列と一般項 ２．等差数列 ３．等差数列の和 ４．等比数列 ５．等比数列の和	a:数列の定義，表記について理解し，用語，記号を適切に用いることができる。等差数列の公差，一般項などを理解し，初項と公差を文字で表して，条件から数列の一般項を決定できる。等差数列の和の公式を適切に利用して，自然数の和，奇数の和，偶数の和などが求められる。等比数列の公比，一般項などを理解し，初項と公比を文字で表して，条件から数列の一般項を決定できる。等比数列の和の公式を，利用して数列の和を求めたり，和の値から数列の一般項を求めたりすることができる。 b:数の並び方からその規則性を推定して，数列の一般項を考察できる。等差数列の項を書き並べて，隣接する項の関係が考察できる。等差数列の和を工夫して求める方法について考察できる。項の正負と数列の和の増減の関係から，等差数列の和の最大，最小について考察することができる。等比数列の項を書き並べて，隣接する項の関係が考察できる。等比数列の和を工夫して求める方法について考察できる。 c:数の並び方に興味をもち，問題解決に取り組もうとする。等差数列の和，等比数列の和および等比中項の性質に興味をもち，問題解決に利用しようとする。	定期考査	定期考査	演習活動 ノート ワークシート 課題プリント

※令和４年度以降入学生用

	第2節いろいろな数列	６．和の記号Σ ７．階差数列 ８.いろいろな数列の和	a:記号Σの意味と性質を理解し，数列の和が求められる。第k項をkの式で表して，初項から第n項までの和が求められる。階差数列を利用して，もとの数列の一般項が求められる。数列の和S_nと第n項a_nの関係を理解し，数列の一般項が求められる。階差数列利用，和S_n利用では，初項の扱いに注意して一般項が求められる。和の求め方の工夫をして，数列の和が求められる。 b:数列の和を記号Σで表して，和の計算を簡単に行うことができる。和Σr_kについて，既に学んだ等比数列の和と捉えて求めることができる。数列の規則性の発見に階差数列が利用できる。初項から第n項までの和に着目して，一般項を考察できる。群数列を理解し，ある特定の群に属する数の和が求められる。 c:自然数の和の公式を用いて自然数の 2 乗の和の公式が導けることに興味をもち，自然数の 3 乗の和の公式を導こうとする。また，さらに高い次数の累乗の和の公式についても考察しようとする。数列の規則性を，隣り合う 2 項の差を用いて発見しようとする。$f(k+1)-f(k)$を用いる和の求め方に興味をもち，具体的な問題に活用しようとする。群数列に興味をもち，考察しようとする。	定期考査	定期考査	演習活動ノート ワークシート 課題プリント

※令和４年度以降入学生用

２学期	第3節漸化式と数学的帰納法	９．漸化式 １０．数学的帰納法	a:漸化式の意味を理解し，具体的に項を求めることができる。漸化式を適切に変形して，その数列の特徴を考察することができる。おき換えを利用して，漸化式から一般項を求めることができる。初項と漸化式から数列の一般項が求められる。数学的帰納法を用いて等式，不等式，自然数に関する命題を証明できる。 $n \geqq k$の場合に成り立つ不等式を，数学的帰納法を用いて証明できる。ある整数の倍数であることを，文字を用いて表現できる。 b:初項と漸化式を用いて数列を定義できることを理解している。複雑な漸化式を，おき換えなどを用いて既知の漸化式に帰着して考えることができる。自然数nに関する命題の証明には，数学的帰納法が有効であることを理解している。数学的帰納法で証明した命題を多面的に考察することができる。 c:おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について，考察しようとする。$a_{n+1} = pa_n + q$を満たす数列の階差数列について，具体的に考察しようとする。具体的な事象の考察に，漸化式を積極的に活用しようとする。数学的帰納法を利用して，いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。	定期考査	定期考査	演習活動ノート ワークシート 課題プリント

※令和４年度以降入学生用

	第1節確率分布	１.確率変数と確率分布 ２.確率変数の期待値と分散 ３.確率変数の和と積	a:確率変数や確率分布について，用語の意味を理解している。確率変数の確率分布を求めることができる。 確率変数の期待値，分散，標準偏差を求めることができる。確率変数の期待値$E(X)$や分散$V(X)$などの計算式を理解して活用することができる。 同時分布の意味を理解し，2 つの確率変数の同時分布を求めることができる。確率変数の和の期待値を，公式を利用して求めることができる。複雑な確率分布の期待値を，確率変数の和の期待値の公式などを利用して求めることができる。確率変数の独立について理解している。独立な確率変数の積の期待値を，公式を利用して求めることができる。独立な確率変数の和の分散を，公式を利用して求めることができる。 b:試行の結果を確率分布で表すことの意味がとらえられている。確率変数の期待値，分散，標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる。確率変数の積の期待値や和の分散と確率変数の性質との相互関係がとらえられている。 c:確率的な試行の結果を表すのに確率分布を用いることのよさに気づき，確率分布について積極的に考察しようとする。確率変数の期待値，分散に関する種々の公式を，その定義や既知の公式を用いて導こうとする。2 つの確率変数の和や積の期待値，分散に関する種々の公式を，確率変数が独立であるかどうかに注意しながら導こうとする。	定期考査	定期考査	演習活動ノート ワークシート 課題プリント

※令和４年度以降入学生用

	第1節確率分布	４．二項分布 ５．正規分布	a:反復試行の結果を，二項分布を用いて表すことができる。二項分布に従う確率変数の期待値や分散を求めることができる。確率密度関数や分布曲線の定義を理解し，連続型確率変数について，確率を求めることができる。正規分布に従う確率変数Xを標準正規分布に従う確率変数Zに変換できる。標準正規分布に従う確率変数Zについての確率を求めることができる。標準正規分布表を用いて，正規分布に関する確率の計算ができる。日常の身近な問題を統計的に処理するのに，正規分布を利用できる。二項分布に従う確率変数に関する確率の計算を，正規分布に従う確率変数で近似して求めることができる。連続的な確率変数について理解し，その期待値と分散が求められる。 b:具体的な事象を二項分布として捉え，考察することができる。正規分布の特徴を理解できる。正規分布を活用して現実のデータについて考察することができる。 c:二項分布に興味・関心をもち，具体的事項について考察しようとする。二項分布に従う確率変数の期待値，分散，標準偏差の公式について，確率分布の定義から導こうとする。二項分布のグラフに関心をもち，調べてみようとする。連続型確率変数について，離散型確率変数との違いに注目して捉えようとする。二項分布について，分布曲線の変化をコンピュータで見るなどして，正規分布に近づいていく様子を確かめようとする。	定期考査	定期考査	演習活動 ノート ワークシート 課題プリント

※令和４年度以降入学生用

３学期	第２節統計的な推測	６．母集団と標本 ７.標本平均の分布 ８．推定 ９．仮説検定	a:復元抽出と非復元抽出について理解している。母平均，母標準偏差を求めることができる。標本平均が確率変数であることを理解している。母平均と母標準偏差から標本平均の期待値と標準偏差を求めることができる。標本平均の分布を正規分布で近似して確率を求めることができる。推定に関わる用語・記号を適切に活用することができる。母平均や母比率の推定ができる。仮説検定に関わる用語を適切に活用することができる。仮説検定の考え方を用いて，日常の身近な事象を検定することができる。 b:母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。標本の大きさを大きくしたとき，標本平均がどのような分布になるか直感的に理解した上で，標本平均の値がどの範囲にどれくらいの確率で現れるか推測できることを理解している。標本の大きさが大きくなるときの標本平均の分布の変化の様子について考察できる。推定，信頼区間，仮説検定の考え方がわかる。片側検定と両側検定の違いを理解し，どちらの検定をするか正しく判断できる。 c:標本の大きさが大きくなるときの分布曲線の変化を，コンピュータなどを用いて積極的に調べようとする。信頼区間の幅と標本の大きさや信頼度との関係を考察しようとする。仮説検定を現実の問題の解決に役立てようとする。	定期考査	定期考査	演習活動ノート ワークシート 課題プリント

※表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度